

平成 23 年度 政務調査研究報告書

会派名	会派 みらい	支出伝票No.	No.
事業名	議会改革の新たな視点		
事業区分 (該当へ〇)	①研究研修 ②調査 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報・広聴 ⑥その他		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

地方自治を確立していくためには自治体機能の拡大と同時に、議会の構成に関して既存の政党枠によらない地方議会独自の結集が求められるのではないかと。会派ではかつて「地域政党たる」の考え方を研究したが基本的に同様な動きが全国にみられる。その一例が今回研究対象にした「地域政党いわて」の動きである。
今後地方自治を考える上で有るべき視点の一つとして求められるのではないかと、その解は？

(2)実施概要

調査・研修の場合の	日時	訪問先・主催者等
実施日時と	7月28日	岩手県花巻市
訪問先・主催者	10時30分～12時00分	

報告内容・実施したこと

1、訪問先の概要
 地域政党いわては岩手県内で活動する地域政党、ただし公職選挙法や政党助成法における政党要件を満たしていないため（1. 国会議員 5 名以上、2. 直近の国政選挙で有効得票の 2% 以上を得る、この 2 点のいずれかを満たす必要がある）法制度上は政党には該当せず政治団体の扱いになる。
 結成は 2010 年 4 月 17 日。2011 年 9 月現在、岩手県議会に 4 名、岩手県内の市町村議会に 4 名を擁している。今年の岩手県知事選挙（9 月 1 日投開票）に、高橋博之の県議会議員が無所属で出馬したが、達増知事「民主推薦」に敗れる。
 また、同時に行われた県議会議員選挙でも候補者 7 名中現職候補 4 名が当選、改選前より 1 議席減らしたが、民主、自民に次ぐ第三党。
 結党宣言では、中央政党の党利党略に地方政治が振り回されることなく、地域主権の当事者である住民目線で地方政治を行う新しい地方自治の必要性を説いている。

2、視察内容
 地域政党いわての結党宣言にある意図する所及びビジョンについて話を伺った。
 ---以下聞き取り---
 現在の中央政党は全て東京発で、中央集権化、硬直化している。中央政党が東京で地方に関わる政策を立案、決定し、地方支部がその下請けに甘んじている。そのような上意下達型の組織では地域の実態を踏まえた政策の実現は難しい。
 地域主権とは、地域が自ら主体的に政策を立案、決定、実行し、責任を持つことであるならば、地域に根ざした地域政党があつてしかるべきである。
 中央政党の党利党略に地方が振り回されることなく、地域主権の当事者である住民目線で地方自治を行う地域政党は時代の要請だ。
 県議会のみならず市町村議会・市町村長などにも広く呼びかけ次期統一地方選挙に候補者を立て本格的な地域政党を目指したい。

※ 党の綱領から 政治姿勢に関して ---
 モノ言う自立型地方自治 — 国や中央政党本部、国会議員から縛られずに『おかしいことはおかしいと堂々と主張し、地方自治体の統治にも主体的に関与していく『自立型地方政治』を確立する。

懇談会の模様 右列手前が高橋氏、二人目が代表の飯澤氏



<幾つかの示唆を受けた>

1点目は、既存政党からの自立

地方議会に於ける中央政党との関係である。

市・町・村のレベルでは自治体の規模が違って、議会における論点は住民のもっとも身近な行政サービスのあり方だけに、そうは変わらないと考えられる。

その意味で、県政のレベルでは国政との関与が近いだけに、中央政党の政策と意向は無視できないとの考えもある。

ところがその関係を脱しようとしているのが「地域政党いわて」の考え方である。むしろ党中央によらない立ち位置で、県政を目指そうとする点に新鮮な思いがした。

2点目は、既存の概念から新しい基軸を模索、「自治三訣」

岩手県の先人、後藤新平氏の提唱した「自治三訣」の「人のお世話にならぬよう、人のお世話をしよう、そして報いを求めぬよう」を基軸に地方の自立を実現するという考え方は、国依存行政依存の甘えを正そうとするもので、これからの自治のあり方として評価出来る。

3点目は、市町村議員と同じ目線で向き合う姿勢

市町村との関係をどう構築していくのかについても興味深い話を伺った

それは、双方が同じ目線で考えるということである。県議と市町村議員が、地域の課題を解決するために意見交換し、場合によっては双方が現場に赴き一緒に話を聞き、それぞれの立場で解決策を見出す、ということである。

※ 懇談を通じて、地域政党いわての課題認識と情熱は十分理解できた。それこそ先駆者であるから課題や困難な点ことも多いだろうとは思いますが、その姿勢に同じ議会人として感銘を受けた。

私たちが目指す「地域政党たる」の考え方と共通する点も多いが、議員の行動の原点である政策なりビジョンの共有と実現のための結集という、議会のあり方から始めようとする点において、その手法に違いがあるのかもしれない。しかしながら地方自治の新たな視点として今後共注目していきたい。

以上

